

[パプアニューギニア]

テレビ番組で 遠隔地の教育改善！

緊張した面持ちでカメラを見つめる女性。
一体、何の番組を作っているのだろう？

文・写真 = 今村 健志朗

Close Up!

ジャイカの
あしあと



「センター長、原稿ではなくカメラを見て話してください！じゃあ、もう一度お願いします。よいスタート！」

プロデューサーのクリナードさんの掛け声に、ステファニー・センター長が慌てて視線をパソコンからテレビカメラに向ける。パプアニューギニア国立教育メディアセンター（NEMC）のスタジオでは、新しい教員向け研修番組作りが行われていた。実際に番組に出演するのは、スタジオなんて見たこともない教育省職員や講師たち。「どこを見て話せばいい？」

「職員にプレッシャーを与えないようにするには？」など、収録の段取りをスタッフみんなで考える。これはパプアニューギニアで行われている「テレビ番組による授業改善プロジェクト」のひとつコマ。しかしなぜテレビ番組なのか？

残念ながら現在、この国の小学校では適切な教科知識や教授手法で授業が行われているとは限らず、教員たちはこれらを習得するために研修を受ける必要がある。しかし、国土の大部分を山岳地帯と離島地域が占めるこの国では、首都

への移動に飛行機が使われており、遠隔地の教員が研修を受けるのは地理的・経済的に難しい。そこで、テレビ番組を活用して、研修を受けられない教員が適切な教科知識やより良い教授手法を習得すると同時に、それまでの間も児童が質の高い授業を受けられるようにしているのだ。

番組は教員研修用番組と児童向けのモデル授業番組の2本立て。教員は研修番組を見て最新のカリキュラムや教授法を知ることができ、児童たちは、教員の指導の中で番組を見ながら学ぶ。また、あらかじめ配布される番組の内容に沿ったワークシートを使ってさらに理解を深めることができる。

プロジェクトリーダーの伊藤明德専門家は「番組作りは根気が要る作業ですが、スタッフは自分たちでアイデアを出し合い、考えることで番組作りへのオーナーシップを培っています」と彼らの奮闘ぶりを頼もしく見守っている。



教員研修用番組にはカリキュラム開発局職員、初等教育研修所講師、首都圏庁（NCDC）職員がプレゼンターとして参加する。モデル授業では、教員査察官から推薦された教師がモデル教師として授業を担当している。